
稜線はお花がお出迎え「那須・井戸沢」

西 正子

●2016年7月10日(日) 晴れ

●メンバー 白井 西A 西M

●コースタイム

駐車地(4:40)→入渓点(6:10)→稜線(9:20)
→大峠(10:50)→駐車地(13:20)

季節を変え、何度でも行きたい沢。那須の井戸沢は、その筆頭格でしょう。明るく開放的な溪相、楽しい滝登り、火山や湖の眺め。今回4度目となる遡行は、白井さんがご一緒でした。

前夜は、深山湖展示館の脇に泊まりました。ここも4回目です。正面が深山湖ですが、今年の少雪少雨の影響でしょう。いつもより10mも水位が低いように見えました。

翌10日は、さらに奥のゲートまで車を進め、出発です。前夜の雨もやみ、青空に鳥のさえずりが、すがすがしく感じられます。林道をなおも歩き、1時間強で三斗小屋宿跡。その先が入渓点です。

苦土川本流の河原を5分ほど歩き、左から入る沢が井戸沢です。初めて行った時は、水もなく涸沢のようなゴー口帯をいぶかしく思いましたが、ここを我慢すると、すぐに流れが現れます。

最初の滝は15m。水を末広がりに勢いよく落としています。上部が急なのでロープを出し、明彦64歳最後のリードでのぞみました。登り上がったところは樹林帯で、茂みの中の踏み跡を拾い、落口に出ました。

最初に難所が終わるのは、よいことです。あとは、慎重に行けば、そう間違いはありません。2、3mから10mの滝が次々登場し、楽しく越えていきました。水平距離2kmで標高差680mを登りつめるので、冗漫な河原歩きの入る余地はありません。おもしろいように高度をかせぎます。

赤茶色の岩盤が立ちのぼる大滝18mを見た

ときは、「これは！」と思いました。しかし、近づいてみると階段状の岩形で、左側をゆっくり登って越えることができました。何回か水流を横切り、体を濡らしましたが、明るい陽射しのもとでは気になりません。

中流部を過ぎると、ナメ滝も多くなり、きれいな景色にほっと一息です。はるかに低くなった深山湖、沼原湖の湖面を眺めながら大休止しました。

つめの二俣はどちらを選んでも問題ありません。笹をかき分け、最後のひとがんばりです。周囲の森は、いつしか低い笹原や草原へと変わっていました。展望が開け、振り返ると、白い煙を上げる茶臼岳のごつごつ岩が印象的でした。

水も涸れ、稜線が間近になり、人の声が聞こえると、そこが登山道、終了点でした。

忌まわしいヤブ漕ぎもない、ほんとうに素直な沢です。ただしヤブ愛好家の白井さんには物足りないかもしれませんが・・・。

大峠までの道は、まさに花街道でした。コバイケソウ、ハクサンフウロ、ハクサンチドリ、ウスユキソウなどさまざまな花の共演がつづきますが、主役はなんといってもニッコウキスゲです。大輪の黄色い花が緑の草原に群生する景色はすばらしく、何度もカメラを取り出しました。

たくさんの登山者もお花が目当てのようで、「きのう雨が降ったので、いっそう花びらが潤っている」などと満足気に話していました。

下山が早いことも、この沢の評判を上げる一因でしょう。大峠から三斗小屋へ向かい、峠沢の流れが横切るところから、細い横道入ります。草が覆うところもありますが、約1時間で入渓点へ帰ることができました。

帰りは、三斗小屋の宿場跡を見学しながら、のんびり歩きました。

「とにかく楽しい井戸沢！」この言葉をキャッチフレーズに、また来年も行きたいと思います。